

EVOX J MIX8

ACTIVE TWO-WAY
ARRAY SPEAKER
WITH INTERNAL
DIGITAL MIXER





目次

1. 安全にお使いいただくために	3
2. 修理 / 保証 / サポートについて	5
3. 製品について	6
4. 設置について	7
5. サブウーファー リアパネル	8
6. 内蔵デジタルミキサーについて	11
7. 製品仕様	24
8. 内蔵デジタルミキサー部仕様	25
9. 寸法図	26
10. 機器の組み合わせ	27
11. ブロックダイアグラム	28



1. 安全にお使いいただくために

お使いになる方や周囲の方々への危害、財産への損害を防ぐため、下記の内容を守ってこの製品を安全にお使いください。
本書はいつでもご覧になれる場所に保存してください。

本書で使用する記号について



「必ず守ってください」という強制を表しています。



「絶対にしないでください」という禁止を表しています。



警告

この記号は取り扱いを誤ると死亡や重症、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。



必ず実行

本書を全て読むこと

この製品を設置、使用する前に必ず本書を全てよく読み、本書の内容に従ってください。



禁止

水分をかけたり湿気にさらさないこと

この製品の上に花瓶や飲み物など、液体が入ったものを置かないでください。また、この製品を雨や霧にさらさないでください。感電や火災、故障の原因になります。



必ず実行

電源コードや接続ケーブルは安全に配置すること

電源コードをストーブの近くなど高温になる場所に設置しないでください。また踏みんだり物に挟んだり、無理な配線を行うと、電源コードが損傷して火災の原因になる場合があります。また足など体の一部を引っ掛けるような場所に配置しないでください。負傷の原因になる場合があります。



禁止

本体を落下しないこと

本体の故障はもちろん、周囲の方が負傷する原因になります。



必ず実行

異臭や異常を感じたら修理を依頼すること

正常に機能しない、電源コードやプラグに異常がある等の場合は、修理をお申し付けください。



必ず実行

専用電源コードは仕様に適合した電源に接続すること

適合しない電源に接続すると、本体の故障、火災や感電の原因になる場合があります。



禁止

大音量で使用しないこと

この製品をアンプやスピーカーなど他の機器と組み合わせて、大音量を再生しないでください。一時的または恒常的な難聴や、スピーカーなど接続している機器が故障する原因になる場合があります。



必ず実行

確実に接地すること（アース）

適合しない電源に接続すると、本体の故障、火災や感電の原因になる場合があります。



必ず実行

移動するときはケーブルを全て抜くこと

電源コードや接続ケーブルを接続したまま本体を移動しないでください。ケーブルを痛めたり、周囲の方が転倒する原因になります。



禁止

本体内部に液体や物をいれないこと

火災や本体故障の原因になる場合があります。この場合は修理をご依頼ください。



禁止

改造を行わないこと

決して製品内部を開いたり、ユニットパネルを動かしたり、その他マニュアルに記載されていない調整を行わないでください。これらの行為は感電やその他災害に繋がる可能性があります。また、あなたの製品にも損害を与える可能性があります。製品内部を開くと、保証対象外となりますのでご注意ください。



禁止

電源コードを濡れた手でさわらないこと

感電の原因となる場合があります。



必ず実行

長時間使用しない時や落雷の危険があるときは電源プラグを抜くこと

火災や感電、故障の原因になる場合があります。



必ず実行

電源コードは必ずこの製品に付属のものを使うこと

適合しないものを使用すると通電中に電源コードが加熱し、火災の原因になる場合があります。



警告

この記号は取り扱いを誤ると死亡や重症、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。



禁止

本体の換気用開口部を塞がないこと

本体内部の温度上昇を防ぐため、この製品の表面には換気用開口部があります。この開口部を塞ぐと適切に換気ができず、内部の温度が上昇して故障や火災、誤作動の原因になる場合があります。



必ず実行

他の機器と接続するときはこの製品の電源を切っておくこと

接続時に大音量のノイズを発生し、聴覚異常やスピーカー破損の原因になる場合があります。



禁止

本体の内部や周囲で可燃性ガスのスプレーを使用しないこと

ガスが滞留して引火による火災などの原因になります。



必ず実行

電源ソケットに手が届くよう設置すること

この製品の背面には電源を遮断する電源スイッチが付いています。この電源ソケットに簡単に手が届くよう設置してください。



注意

この記号は取り扱いを誤ると負傷、機器の損傷や物的損害の原因になる可能性がある内容に付いています。



必ず実行

本体は安定した場所に設置すること

本体を不安定な場所に設置すると、落下などによる故障の原因になります。



禁止

裸火を近づけたり熱源の近くに設置しないこと

この製品に直射日光を当てたり、ストーブなど熱源になるものの近くに置かないでください。本体が故障する原因になります。



禁止

ボタンやスイッチ、入出力端子に無理な力を加えないこと

本体の故障やお使いになる方が怪我をする原因になります。



禁止

テレビ、ラジオ、携帯電話の近くで使用しないこと

この製品またはテレビやラジオなどに雑音が入る場合があります。



必ず実行

スピーカーは定格範囲内で使用すること

定格範囲を超えるレベルや周波数を入力すると、スピーカーが故障する場合があります。特に歪にはご注意ください。



禁止

この製品に付属している電源コードをほかの電気用品に使用しないこと

この製品に付属している電源コードはこの製品専用のものです。ほかの電気用品には絶対に使用しないでください。



禁止

高温になる場所に設置しないこと

直射日光が当たる場所、熱を発するものの近くに置かないでください。製品の上でろうそくなど裸火を置かないでください。



2. 修理 / 保証 / サポートについて

修理について

日本国内仕様の RCF 製品の修理は、音響特機株式会社または提携サービスセンターで行っています。RCF 製品の修理やメンテナンスが必要な場合は、次の手順に従ってください。

- 弊社ホームページ（www.otk.co.jp）の「修理依頼」より「REPAIR カード」をダウンロードしてください。「REPAIR カード」に必要事項をご記入の上、FAX（03-5534-6783）もしくはメール（repair@otk.co.jp）でお送りください。折り返し修理受付番号と製品送付先のサービスセンターが記載された修理受付表を FAX もしくはメールにて返送致します。修理受付番号はサービスセンターへ送付される前に必ず取得してください。
- オーナーズマニュアルと電源コードは同梱しないでください。修理には必要ありません。
- 本体を梱包材とともに製品パッケージに入れて、サービスセンターへ送付してください。当社では輸送上のダメージを保証することができません。
- 修理受付番号が記載された修理受付表のコピーを必ず同梱してください。また送り状の通信欄にも、修理受付番号と商品名、製造番号を記載してください。修理受付番号のない修理品は受付できません。
- 修理状況によっては見積もり金額が変動する場合があります。
- 修理をキャンセルした場合、キャンセル料が発生する場合があります。予めご了承ください。

保証

本機の保証期間はご購入日より 1 年です。

保証期間内に正常な使用状態で本体に不具合が生じた場合、正規のサービス担当者が無償で修理を行います。ただし、下記の場合は保証期間内でも有償修理となります。

- お買い上げ後の輸送 / 移動 / 落下などによる故障および損傷
- ご使用上の誤りおよび弊社の認可していない修理や改造による故障および損傷
- 火災、煙害、ガス害、地震、落雷、風水害などの天変地異、あるいは異常電圧などの外部要因による故障および損傷
- 本機に接続している機器及び消耗品に起因する故障および損傷
- 正常な状態でのご使用中でも、自然消耗、摩耗、劣化によって故障あるいは損傷が生じた場合
- 日本国外でご使用中の故障、損害

サポート

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは以下の通りです。

音響特機 RCF カスタマーサポート

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 10-1 CSS ビルディング 5F

TEL: 03-3639-7800

FAX: 03-3639-7801

故障 / 修理や保守についてのお問い合わせは以下の通りです。

音響特機サービスセンター

〒136-0083 東京都江東区若洲 2-6-6 千住倉庫 1 階 B 棟

株式会社日本システムサービス内

FAX: 03-5534-6783

Email: repair@otk.co.jp

営業日：月曜日～金曜日 9：00～17：30

休業日：土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏季

3. 製品について

RCF EVOX J MIX8 は、サテライトスピーカーとサブウーファーで構成されるポータブル PA システムです。高音質かつ信頼性の高い RCF 社製のトランスデューサーと、高出力のパワーアンプを搭載しています。

8 基の 2 インチフルレンジトランスデューサーをサテライトソースとして搭載し、深みのある低域を再生できる 12 インチウーファーをバスレフエンクロージャーに搭載しています。

8 チャンネルデジタルミキサー内蔵

EVOX J8 をさらに一歩進化させ、本製品には 8 チャンネルのデジタルミキサーを追加しました。革新的な Z.CORE DSP のオンボード処理能力により、フルミックス機能だけでなく、高品位な FX や AMP シミュレーターも搭載しています。また iOS / Android 対応アプリで、J MIX8 をリモートコントロールできます。さらに Bluetooth オーディオと Hi-Z 対応楽器入力を新たに搭載したことで、高い汎用性を備えました。このシステムは、ライブミュージックや DJ セット、プレゼンや会議などに最適なポータブルソリューションです。

先進的な DSP プロセッシング

EVOX J MIX8 に搭載されている DSP には、長年に渡りラインアレイをデザインし、革新的かつ専用のアルゴリズムを開発してきた経験が集約されています。可動域の広いドライバーと歪みの制御機能により、EVOX の DSP はこの小さなシステムで驚くほどの高出力を実現できます。プレゼンテーションや会議におけるスピーチ再生に特化した研究を重ね、優れたボーカルプロセッシングを生み出しました。

RCF の技術

EVOX J MIX8 には RCF の技術が集約されたトランスデューサーが搭載されています。ウルトラコンパクトな 2 インチフルレンジドライバーは、高い音圧レベルとパワーを実現します。可動域の広いウーファーは低域を拡張し、クロスオーバーポイントまでの帯域において、素早く正確なレスポンスを実現します。また中低域に関しても細心の注意を払って開発しています。

制御された指向性パターン

EVOX のアレイデザインにより、水平 120°という広い範囲をカバーすることができ、多くのオーディエンスに鮮明な音を届けることができます。

垂直方向に長いアレイユニット部分は独特な形をしており、オーディエンスの一列目から均等に音を届けます。

多機能の天面ハンドル

サブウーファーユニットボックスの天面には、ハンドルそしてポールマウント用の穴を備えたスチールプレートが取り付けられています。可搬性をより優れたものにするため、ゴム製のグリップがハンドル部分に取り付けられています。

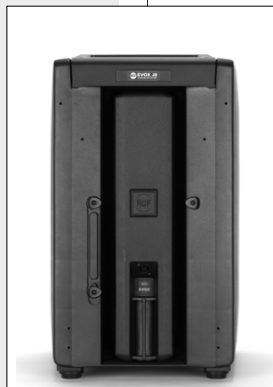
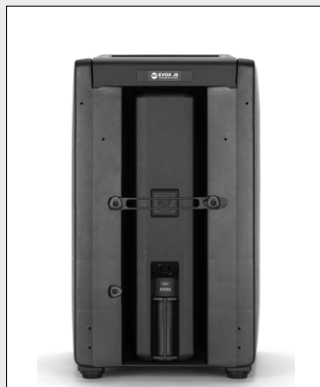
クラス D アンプ

EVOX J MIX8 には、DSP により制御されたクロスオーバーを備えた高出力 2 ウェイクラス D アンプが搭載されています。



4. 設置について

ゴムバンドを取り外し、サテライトスピーカーをサブウーファーから取り出します。



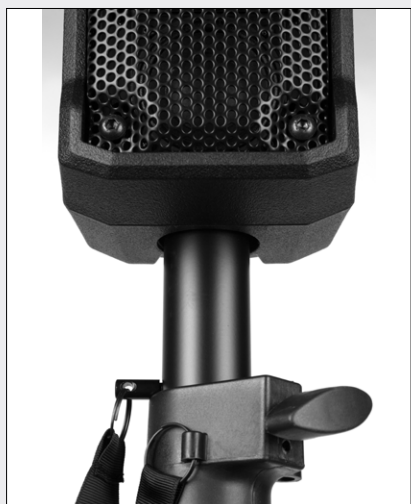
スピーカーポールは2本を繋ぎ合わせて使用します。まずサブウーファース天面のネジ穴に、高さが決まっているポールを取り付けてください。



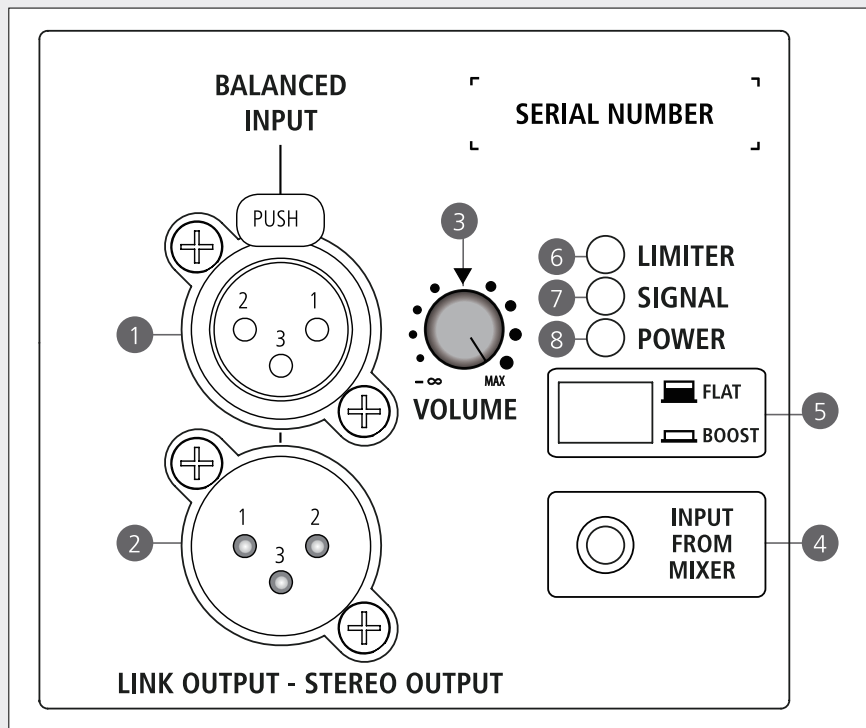
その後サブウーファーに取り付けたポールの上に繋げてください。



ポールについている蝶ネジを緩め、サテライトスピーカーが床面から適切な高さに設置されるよう調整し、再び蝶ネジを締めてください。



5. サブウーファー リアパネル



1. BALANCED INPUT 端子 (XLR メス端子)

XLR 端子を接続し、信号を入力します。

2. LINK OUTPUT - STEREO OUTPUT 端子 (XLR オス端子)

オーディオ入力端子と平行接続されており、別のスピーカーへ信号を出力できます（上図 4 の INPUT FROM MIXER ボタンの LED が消灯している場合のみ有効）。INPUT FROM MIXER ボタンの LED が点灯している場合、ミキサーの R 側の信号を出力します。

3. VOLUME ノブ

マスターボリュームの調整ができます。

4. INPUT FROM MIXER LED

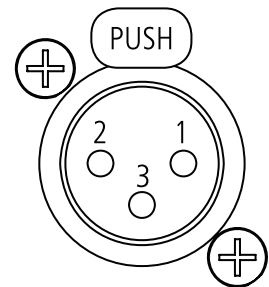
LED が消灯している場合、デジタルミキサー機能は無効となり、1. BALANCED INPUT 端子 (XLR メス端子) に接続されている信号が入力されます（[17] を参照してください）。またこの場合、2. LINK OUTPUT - STEREO OUTPUT 端子 (XLR オス端子) は平行オーディオ出力として機能します。

LED が点灯している場合、信号はデジタルミキサー側から入力されます。この場合、XLR オス端子はミキサーの R 側の信号を出力します。（ミキサーには、L-R 出力チャンネルを“R-L”チャンネルに変換させることができる SWAP LR 機能があります。詳しくはデジタルミキサーの [11] を参照してください。）

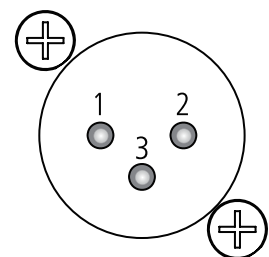
5. FLAT/BOOST スイッチ

FLAT（スイッチが押し込まれていない状態 / 通常モード）：出力される音に EQ はかかりません（周波数レスポンスはフラットです）。

BOOST（スイッチを押し込んだ状態）：「ラウドネス」さを加える EQ ががかかります。低いボリュームレベルで BGM を再生する時のみ、使用することをお勧めします。



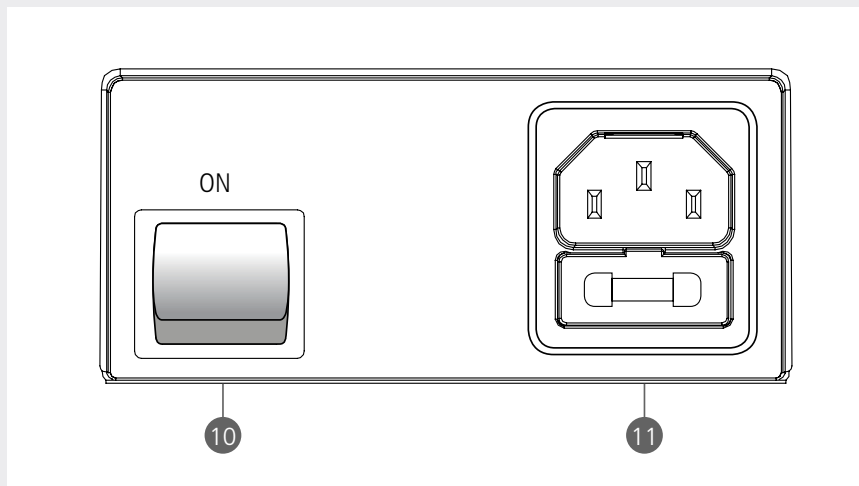
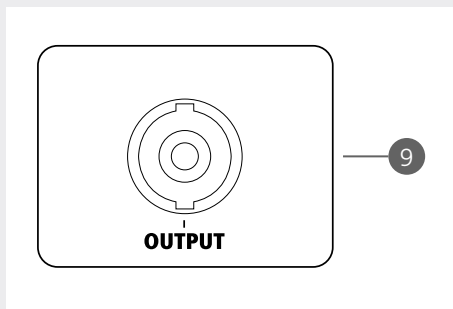
XLRメス端子



XLRオス端子



XLRピン：
PIN 1 = グラウンド
PIN 2 = ホット (+)
PIN 3 = コールド (-)



6. LIMITER LED

内蔵されているアンプはリミッター回路を搭載しており、クリップやオーバードライブからスピーカーユニットを保護します。信号レベルがクリップポイントに達した場合にこのLEDが点灯し、リミッターが動作します。LEDが継続的に点灯している場合、入力信号レベルが大きすぎるため、レベルを下げてください。

7. SIGNAL LED

オーディオ入力端子からの信号を検知した場合に点灯します。

8. STATUS LED

内部に温度変化が生じ、保護回路が動作した際に点灯します（アンプがミュートされます）。

9. OUTPUT 端子

サテライトスピーカーを接続するためのアンプ出力端子です。

10. 電源スイッチ

本体の電源をオン / オフします。

電源を入れる前に全ての接続が問題ないか確認を行い、必ず本体の VOLUME ノブが最小（-∞）まで絞られているか確認してください。

11. 電源ソケット

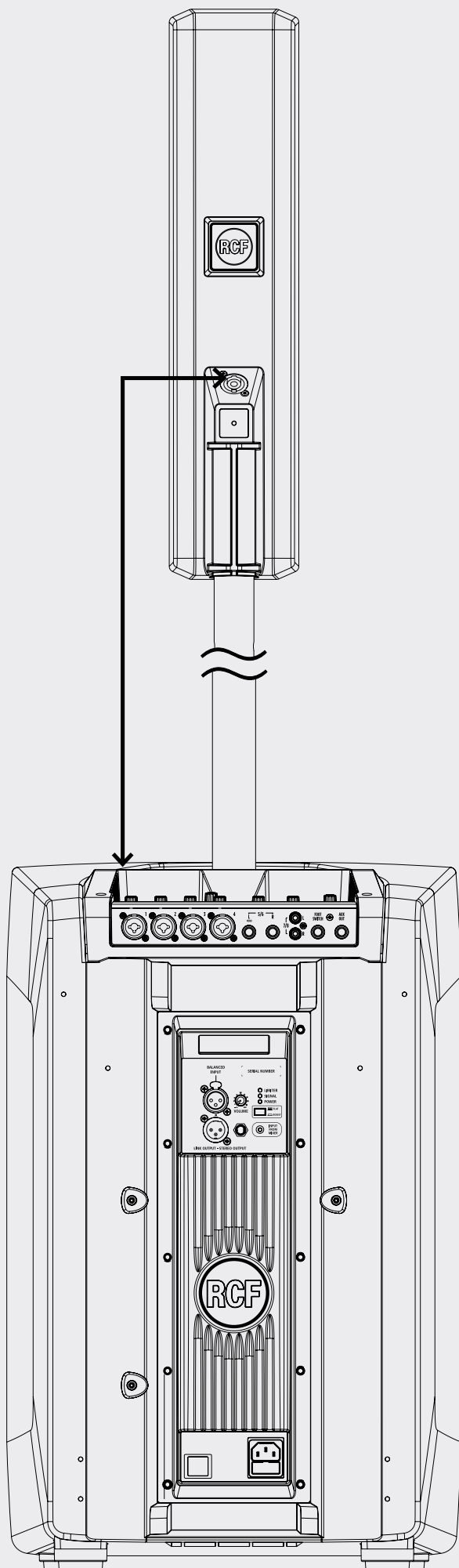
100-120V~ T 6.3 A L 250V

電源コードを接続する前に左側に貼ってあるシールが 115V になっており、日本国内で使用できる状態であることを確認してください。

その後電源コードを接続してください。

ヒューズを交換するときは、プレートに印刷されている図を確認してください。

注意：この端子は、システムの電源を落とす際に使用します。万が一の場合に備え、設置後も容易に手が届く状態にしてください。

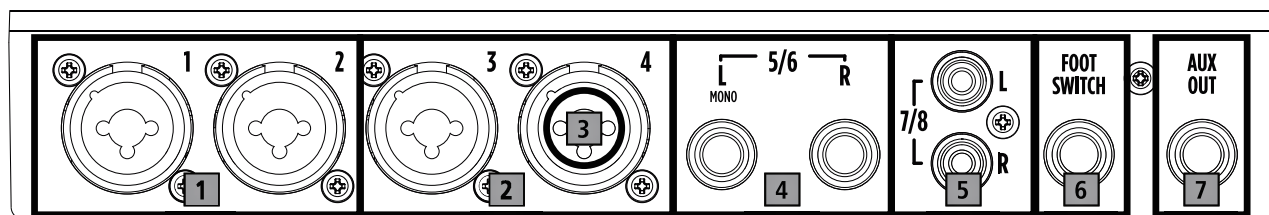


重要：

アンプの電源を入れる前に、必ずサブウーファーの出力端子とサテライトスピーカーの入力端子を接続してください（左図を参照してください）。

6. 内蔵デジタルミキサーについて

INPUT PANEL



[1] MIC/LINE コンボ入力 1 & 2：マイク（XLR 端子）またはライン入力（TRS フォン端子）を接続できます。マイク入力には 48V ファンタム電源を供給でき、コンデンサーマイクやエレクトレットマイクを接続することも可能です。

[2] MIC/LINE コンボ入力 3 & 4：ダイナミックマイク（XLR 端子）またはライン入力（TRS フォン端子）を接続できます。

[3] Hi-Z LINE 入力：Ch.4 はハイインピーダンス入力を選択でき、パッシブピックアップのギターやベースを直接接続できます。LINE 入力 4 に接続された楽器は、MFX セクションを活用することができます（本マニュアルのセクション 16 を参照）。

[4] ステレオライン入力 5 & 6：TS フォン端子を使い、ステレオライン信号を入力できます。Ch.5（L）のみに接続した場合、モノラル信号となります。

[5] ステレオライン入力 7 & 8：RCA 端子のアンバランス入力で、低レベル（-10 dBV）のステレオラインソースを接続します。

[6] FOOTSWITCH 端子：デュアルフットスイッチを接続でき、1 つの機能をチップに、もう 1 つの機能をリングに割り当てることができます。割り当て可能な機能は、デジタルミキサーの [16] を参照してください。

[7] AUX OUT 端子：AUX センド用のバランス出力端子です。

ディスプレイメニュー情報

EVOX JMX8 に搭載されている機能はすべてディスプレイから設定できます。

INPUT（入力）、OUTPUT（出力）、HOME（ホーム）、SYSTEM（システム）、MFX、FX の各ボタンから、LCD 液晶ディスプレイ上のすべてのパラメーターページにアクセスできます。

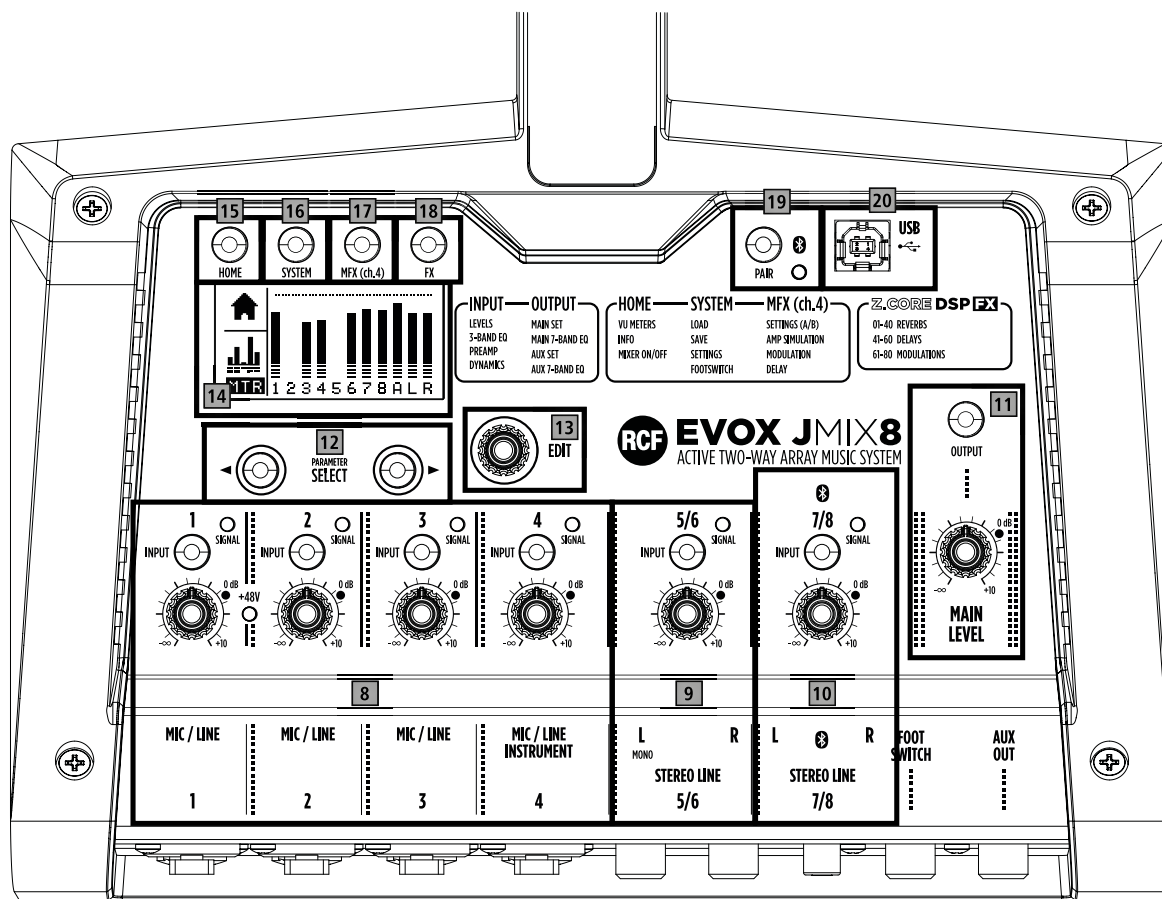
[12] PARAMETER SELECT ボタンを押し、編集するパラメータを選択し、[13] EDIT エンコーダーを回して値を変更します。設定によっては EDIT エンコーダーを押して値や機能の変更を確認する必要があり、その場合はメッセージが表示されます。

全ディスプレイページは、パネルのシルクスクリーンに以下の通り表示されます。

全ディスプレイページは、パネルのシルクスクリーンに以下の通り表示されます。

INPUT	OUTPUT	HOME	SYSTEM	MFX (ch.4)	Z.CORE DSP FX
LEVELS	MAIN SET	VU METERS	LOAD	SETTINGS (A/B)	01-40 REVERBS
3-BAND EQ	MAIN 7-BAND EQ	INFO	SAVE	AMP SIMULATION	41-60 DELAYS
PREAMP	AUX SET	MIXER ON/OFF	SETTINGS	MODULATION	61-80 MODULATIONS
DYNAMICS	AUX 7-BAND EQ		FOOTSWITCH	DELAY	

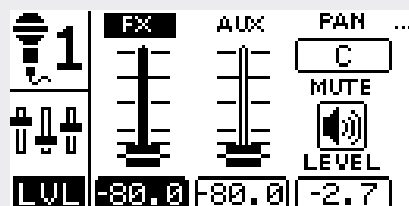
FRONT PANEL



[8] モノラル入力チャンネル：MIC/LINE 入力 Ch.1～Ch.4 には、レベルノブと INPUT ボタンがあります。0 dB という小さな黄色い点は、各チャンネルのユニティゲインレベルを示します。SIGNAL LED は、-40 dB 以上の信号を検知すると緑色に点灯します。Ch.1 と Ch.2 のレベルノブの間にある赤い LED は、それらのチャンネルで +48V ファンタム電源がオンになっていることを示します（[16] を参照してください）。[15] HOME ボタンを押すと METER ページが開き、信号入出力のレベルメーターが表示されます。INPUT ボタンを繰り返し押すと、4つの表示パラメーターページ [14] にアクセスできます。ディスプレイ左上の数字は、編集集中の入力チャンネルを示します。

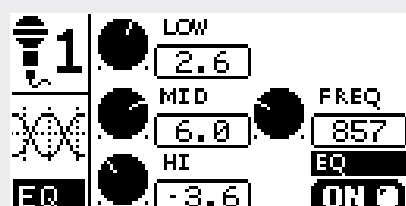
モノラル入力チャンネルメニュー：

LVL ページ



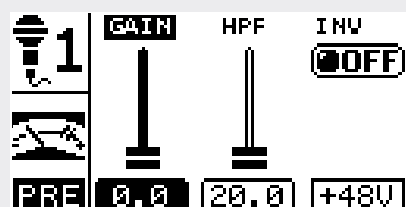
LVL (レベル)：ここでは、指定した入力チャンネルの FX センドと AUX センドレベルにアクセスできます。PAN とチャンネルの MUTE コントロールは右側に表示されます。下の行の四角い小さなボックスは、FX センド、AUX センド、チャンネルレベルの絶対レベルを示します。

EQ ページ



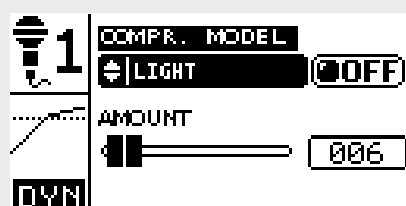
EQ：ここでは EQ パラメーターにアクセスできます。すべての入力チャンネルには 3 バンドの EQ が搭載されています。LOW と HIGH バンドは +/-12 dB のシェルビング EQ で、基準周波数は 125 Hz と 6.0 kHz です。MID バンドは 50 Hz から 12 kHz の周波数と +/-12 dB のゲインを選択できます。右下にグローバル EQ の ON/OFF コントロールがあります。

PRE ページ



PRE (プリアンプ)：ここではプリアンプ部の入力ゲインを調整できます。GAIN パラメーターで、入力信号を最大 30 dB 増幅できます。また HPF メーターで 20 Hz ～ 1 kHz のハイパスフィルターを設定できます。INV ON/OFF は、入力信号の極性を反転できます。Ch.1 と Ch.2 の PRE ページでは、+48V ファンタム電源のオン / オフを切り替えられます ([16] を参照してください)。

DYN ページ



DYN (ダイナミクス)：モノラル入力 Ch.1 ～ Ch.4 にはコンプレッサーが搭載されています。カーソルはコンプレッサーの掛かりの深さを示します。右側のボックスでコンプレッサーの ON/OFF を切り替えます。コンプレッサーモデルリストから 6 種類のプリセットを選択できます。

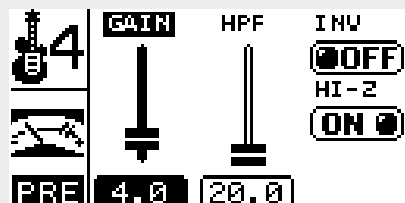
コンプレッサーモデル：

1. LIGHT
2. HEAVY
3. VOCAL
4. BASS
5. ACOUSTIC
6. DRUM

LINE Ch.4 について

LINE Ch.4 は Hi-Z ハイインピーダンス入力を選択可能で、ギターやベースなどの楽器を直接接続できます。Ch.4 に接続された楽器は、MFX セクションを利用することもできます ([17] を参照してください)。LINE Ch.4 の PRE ページは下記のように、その他のチャンネルとは少し異なります。

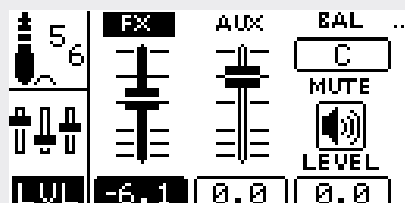
LINE Ch.4 PRE ページ



HI-Z ボックスで、LINE Ch.4 のハイインピーダンス入力のオン / オフを切り替えることができます。

[9] ステレオライン入力チャンネル 5/6：これらの TS フォン端子には、任意のアナログステレオソースを接続します。専用ノブでステレオチャンネルのレベルをコントロールします。SIGNAL LED は、-40 dB 以上の信号を検知すると緑色に点灯します。INPUT ボタンを押すとメニューが表示されます。

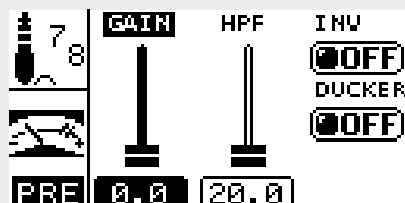
LVL ページ



LVL (レベル)：モノラルチャンネルと同様、このメニューページではチャンネルの FX センド、AUX センドにアクセスできます。BAL (バランス) とチャンネルの MUTE コントロールは右側に表示されます。MUTE ボタンを押すと、FX センドと AUX センドにも作用します。下の行の四角い小さなボックスは、FX センド、AUX センド、チャンネルレベルの絶対レベルを示しています。その他のページはモノラルチャンネルと同一です。

10. ステレオライン入力チャンネル 7/8：これらの RCA 端子には、低レベルのアナログステレオソースを接続します (-10 dBV)。専用ノブでステレオチャンネルのレベルをコントロールします。-40 dB より大きな信号が入力されると、SIGNAL LED が緑色に点灯します。INPUT ボタンを押すとメニューが表示されます。チャンネル 7/8 のコントロールページは、PRE ページを除き、チャンネル 5/6 と同じです。

PRE ページ



ここでは DUCKER ON/OFF で、Ch.7/8 のダッカーゲートのオン / オフを切り替えられます。Ch.7/8 は Bluetooth オーディオ入力にも使用されます。

[11] **MAIN LEVEL セクション**：ここではマスターレベルをコントロールできます。MAIN LEVEL ノブと OUTPUT ボタンがあります。0 dB という小さな黄色のポイントは、メインミックスのユニティーゲインレベルを示します。[15] HOME ボタンを押すと、L-R 出力のレベルメーターを含む METER ページが表示されます。OUTPUT ボタンを押すと次のページにアクセスします。

MAIN OUT ページ



このページのドロップダウンメニューには、選択可能な4つのマスタリングプリセットが表示されます。EDIT エンコーダーを回転させて押し込み、マスタリングプリセットを選択します。

これらのプリセットは、エキサイターとマキシマイザーの働きを組み合わせ、マスター信号に素晴らしいダイナミクスと周波数特性の改善を適用します。

「MP ON」でプリセット使用のオン / オフが切り替えられます。

「STEREO」よりシステムの構成を選択できます。EVOX J MIX8 を単体スピーカーとして使用する場合、STEREO ボックスは OFF にしてください。EVOX J MIX8 + EVOX J8 をステレオシステムとして使用する場合は、STEREO を ON に設定してください。デフォルトでは EVOX J MIX8 が L (左) チャンネル、EVOX J8 が R (右) チャンネルを出力します。

これらを正しく配置できない環境やセットアップの場合は、「SWAP LR」を使用してステレオイメージを反転させることができます。

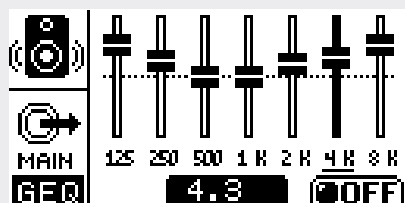
SWAP LR (OFF) : L (左) EVOX J MIX8 - R (右) EVOX J8

SWAP LR (ON) : L (左) EVOX J8 - R (右) EVOX J MIX8

「EQ LIVE」で、楽器のライブ演奏に最適化された EQ を切り替えられます。EQ LIVE 設定は L/R 両出力に影響するため、LINK OUTPUT - STEREO OUTPUT 端子に接続された外部 EVOX J8 でも有効になります。

「MUTE」は、メインステレオチャンネルに出力される信号をミュートできます。ディスプレイ右下の数値ウィンドウは、MAIN LEVEL ノブの公称レベルを示します。ノブの目盛りの小さな丸い点は 0.0 dB レベルを示します。

MAIN GEQ ページ

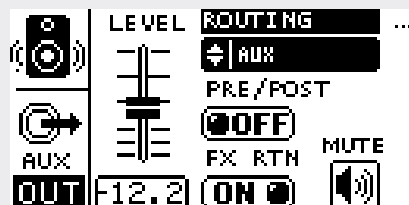


メインチャンネルで使用可能な7バンドのグラフィックEQにアクセスするページです。[12] PARAMETER SELECT ボタンでEQの各バンドを選択し、EDIT エンコーダーを回して値を変更します。選択したバンドの変化量が dB 単位で表示されます。右下のボックスでEQ全体のON/OFFを切り替えられます。

マスタリングプリセット

1. MASTERING
2. MASTER BOOST
3. LOUD & PROUD
4. HI-FI

AUX OUT ページ - ROUTING AUX



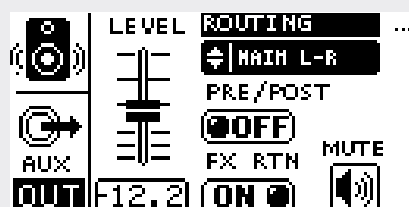
ここでは、AUX 出力のマスターレベルコントロールにアクセスできます。AUX センドを通常使用する場合は、ROUTING ドロップダウンメニューから「**AUX**」を選択します。

「**PRE/POST**」で AUX 信号をチャンネルレベルコントロールの前の信号または後の信号にするか選択できます。AUX PRE の場合は OFF、AUX POST の場合は ON に設定します。

「**FX RTN**」で内部エフェクトのリターンを AUX バスにアサインするかどうかを選択します。

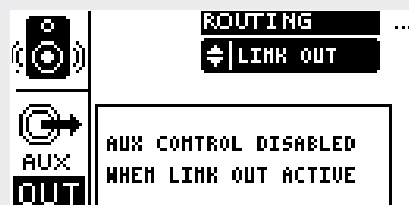
「**MUTE**」で AUX バス出力をミュートできます。

AUX OUT ページ - ROUTING MAIN L-R



ROUTING ドロップダウンメニューから「**MAIN L-R**」を選択すると、AUX バスにメインミックスの信号をモノラルで割り当てることができます。

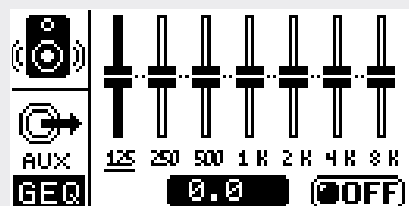
AUX OUT ページ - ROUTING LINK OUT



ROUTING ドロップダウンメニューから「**LINK OUT**」を選択すると、AUX OUT 端子からさらなる EVOX J8 とリンク接続できます。この設定により 1 台の EVOX JMIX8 と最大 3 台の EVOX J8 による大規模なセットアップが構築できます (P.XX 「EVOX JMIX8 の設定」を参照してください)。

このとき、AUX コントロールパラメーターは無効化されます。

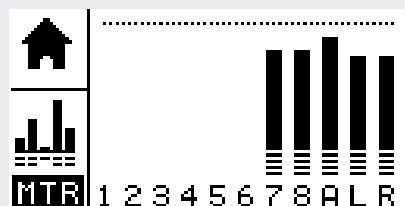
AUX GEQ ページ



このページでは、AUX で使用できる 7 バンドのグラフィック EQ にアクセスできます。PARAMETER SELECT ボタンで EQ の各バンドを選択し、EDIT エンコーダーを回して値を変更します。下部には、選択したバンドの変化量が dB 単位で表示されます。右下のボックスで EQ 全体の ON/OFF を切り替えられます。

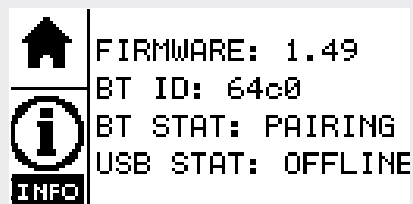
[15] **HOME ボタン**：HOME ボタンは押す度に MTR ページ、INFO ページ、そして I/O ページの 3 つのページを切り替えられます。

MTR ページ



METER ページでは、すべてのチャンネルの信号レベルを確認できます。Ch.1 から Ch.8、AUX、およびメイン L/R が表示されます。

INFO ページ



HOME ボタンを再度押すと、INFO ページに遷移します。ここではファームウェアの確認や Bluetooth のステータスなどの確認を行えます。

FIRMWARE：ファームウェアバージョン -x.xx

BT ID：Bluetooth ID -123x

BT STAT：Bluetooth ステータス - (OFF/PAIRING/ONLINE)

USB STAT：USB 接続ステータス - (OFFLINE/ONLINE)

I/O ページ



ホームボタンを再度押すと、I/O ページに遷移します。

このメニューでは、EVOX JMIX8 のミキサー機能を無効にできます。

EDIT エンコーダーを反時計回りに回して、メニュー行を MIXER ENABLE から MIXER DISABLE に変更し EDIT エンコーダーを押すと、メッセージが表示されます。次のページで詳細を説明します。

I/O ページ - MIXER ENABLE - DISABLE MIXER



この画面で EDIT エンコーダーをもう一度押すと、ミキサーが無効になり、LCD ディスプレイのバックライトが約 3 秒後に消灯します。

これでミキサー機能は無効になり、EVOX JMIX8 はサブウーファースのバックパネルにある XLR 接続をモノラル入力として、従来のアクティブスピーカーと同じように使用できます。

再びミキサー機能を有効にするには、EDIT エンコーダーを時計回りに回し、EDIT エンコーダーを押してください。下記のようなメッセージが表示されます。

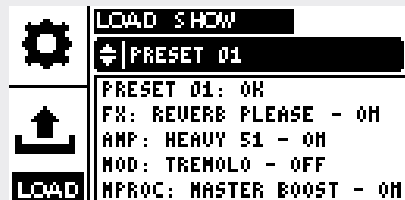
I/O ページ - MIXER ENABLE - ENABLE MIXER



この画面で EDIT エンコーダーをもう一度押すと、EVOX JMIX8 のミキサー機能が再び有効になります。

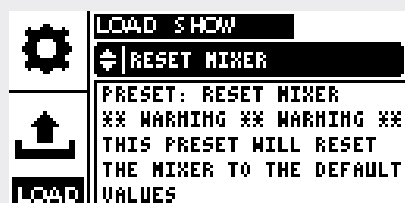
[16] SYSTEM ボタン：ボタンを 1 回押すと LOAD SHOW ページにアクセスできます。

LOAD ページ



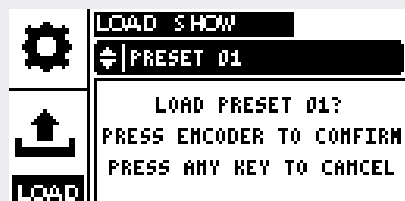
ここでは専用メニューから保存済みの SHOW をロードすることができます。SHOW プリセットには、INPUT とメインレベルを除くすべてのミキサーパラメーターが含まれます。これらのパラメーターは絶対値で、ノブのみでコントロールできます。選択可能なプリセットは 10 種類 (01 ~ 10) で、さらに RESET MIXER と呼ばれる特別な 11 種類目のプリセットがあります。

LOAD ページ - LOAD SHOW - RESET MIXER



RESET MIXER プリセットをロードすると、ミキサーがデフォルトの設定に戻ります。

LOAD ページ - LOAD SHOW - PRESET ①



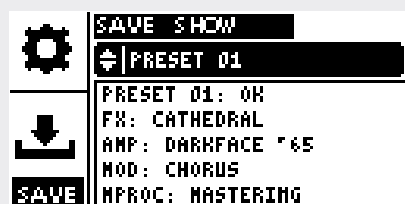
プリセットをロードするには、EDIT エンコーダーを時計回りに回転させ、プリセットを選択し、EDIT エンコーダーを押します。その後、上記メッセージが表示されます。この画面でEDIT エンコーダーをもう一度押すと、プリセットをロードできます。EDIT エンコーダー以外のボタンを押すことでキャンセルできます。

LOAD ページ - LOAD SHOW - PRESET ②



プリセットが正常にロードされると、プリセット情報が LOAD SHOW ページの任意のエリアに表示されます。

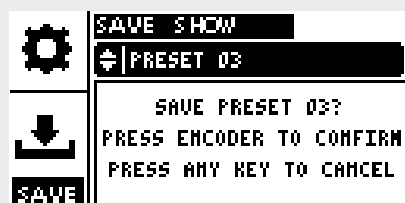
SAVE ページ



SAVE ページでは、プリセットにあるミキサーの値をすべて保存できます。繰り返しとなりますが、INPUT とメインレベルはプリセットデータには含まれません。これらのパラメーターは絶対値で、ノブのみでコントロールできます。

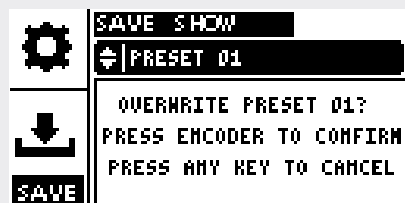
EDIT エンコーダーを回して、プリセット番号を選択してください。そのまま EDIT エンコーダーを押すと、下記のようなメッセージが表示されます。

SAVE ページ - SAVE SHOW - SAVE PRESET



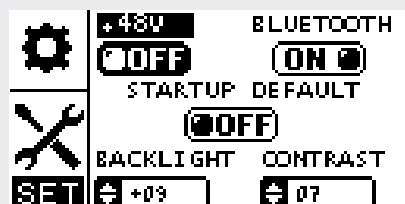
SAVE PRESET XX?（プリセットをセーブしますか？）とメッセージが表示され、この画面で EDIT エンコーダーをもう一度押すと、プリセットをセーブできます。EDIT エンコーダー以外のボタンを押すことでキャンセルできます。選択したプリセットに既に他のデータがセーブされている場合、メッセージが表示されます。詳細は次のページを確認してください。

SAVE ページ - SAVE SHOW - OVERWRITE



OVERWRITE PRESET XX?（プリセットを上書きしますか？）とメッセージが表示され、この画面で EDIT エンコーダーをもう一度押すと、プリセットを上書きセーブできます。EDIT エンコーダー以外のボタンを押すことでキャンセルできます。

SET ページ



SYSTEM ボタンを再度押すと、SET ページが表示されます。ここでは、いくつかの重要なミキサー設定にアクセスできます。

「+48V」でマイク入力 Ch.1 と Ch.2 の +48V ファンタム電源供給のオン / オフを切り替えられます。

「BLUETOOTH」でオーディオストリーミングおよびコントロールの両方の Bluetooth をオン / オフできます。

「STARTUP DEFAULT」でシステム起動時のミキサーステータスを変更できます。本設定がオフの場合、直近に再生されたミキサーのステータスを維持します。ON の場合、ミキサーは電源を入れる度にデフォルトのコンフィグ設定に戻ります。

「BACKLIGHT」と「CONTRAST」で LCD ディスプレイの明るさとコントラストを調整できます。

FSW ページ



SYSTEM ボタンを再度押すと、フットスイッチの機能が設定できる FSW ページに移動します（入力パネルの詳細については [6] を参照してください）。

FSW ページは、TIP FUN、RING FUN、そして POLARITY の 3 項目について設定できます。

「TIP FUN」は右側リストから選択できます。これはフットスイッチフォン端子のチップ部分にアサインする機能（FUNCTION）となります。

「RING FUN」も右側リストから選択し、フォン端子のリング部分にアサインする機能を決定できます。

「POLARITY」では、接続したフットスイッチの初期状態を NORMALLY CLOSED（ノーマルクローズ）と NORMALLY OPEN（ノーマルオープン）の間で変更できます。

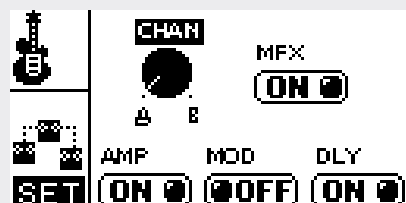
フットスイッチ機能一覧

- MUTE OUTS
- FX ON/OFF
- MFX CHAN A/B
- MFX ON/OFF
- MFX AMP ON/OFF
- MFX MOD ON/OFF
- MFX DLY ON/OFF
- SHOW NEXT
- SHOW PREV
- MASTER PROC ON/OFF

[17] **MFX (ch.4) ボタン**：MFX ボタンは、LINE 入力 Ch.4 の MFX チェーンに関連するメニューをコントロールします。

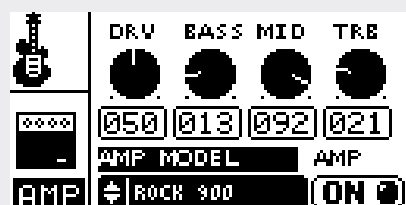
MFX 全体のローカル設定は、チャンネル A と B の 2 つを設定できます。フットスイッチを使用して A と B を切り替えることができます (P.20 を参照してください)。

SET ページ



SET ページでは、専用のノブアイコンで FX チャンネル A または B を選択できます。「MFX」で、MFX チェーンのオン / オフを切り替えます。ディスプレイの最下段にある「AMP (ギター&ベース・アンプシミュレーター)」、「MOD (モジュレーションエフェクト)」、「DLY (ディレイ)」で、MFX チェーンのコンポーネントを個別にオン / オフできます。

AMP ページ



MFX ボタンを再度押すと、AMP ページにアクセスできます。

ここではページ下部にある AMP MODEL メニューより、OVERLOUD™社製の 15 種類ある AMP シミュレーションから好みのものを選択できます。右側のリストを参照してください。

EDIT エンコーダーを回して、AMP シミュレーションモデルを選択できます。画面上部にあるロータリーコントロールで、選択した AMP モデルのパラメーター値 (「DRV」(ドライブ)、「BASS」、「MID」、「TRB」) を変えることができます。

「AMP」では、アンプのバイパス設定を行えます。

MOD ページ



MFX ボタンを再度押すと、MOD ページにアクセスできます。

ここではページ下部にあるメニューより、3 種類のモジュレーションプリセットから好みのものを選択できます。右側のリストを参照してください。

画面内の 2 つのロータリーコントロールで、選択したモジュレーションプリセットのパラメーター値 (「DEP」(深度)、「RATE」(レート)) を変更できます：DEP は 0 ~ 100%、RATE は Hz 単位で変更できます。

「MOD」では、モジュレーションのバイパス設定を行えます。

AMP MODEL 一覧

1. DARKFACE '65
2. JAZZ C
3. ROCK' 64
4. ROCK 800
5. ROCK 900
6. TOP 30
7. MODERN
8. BASSAMP
9. BASSMATE
10. MARKBASS 1
11. MARKBASS 2
12. SLO 88 CRUNCH
13. SLO 88 LEAD
14. OVERANGE 120
15. HEAVY 51

MOD. PRESET 一覧

1. CHORUS
2. FLANGER
3. TREMOLO

DLY ページ



MFx ボタンを再度押すと、DLY（ディレイ）ページにアクセスできます。

ここでは、ディレイを編集するための3つのロータリーコントロール（「**LEV**」（レベル）、「**TIME**」（ディレイ時間 / 単位:ミリ秒）、「**FDBK**」（ディレイフィードバック））が表示されます。これらのパラメーターを設定して、お気に入りのディレイ効果を作成できます。「**DLY**」では、ディレイのバイパス設定を行えます。

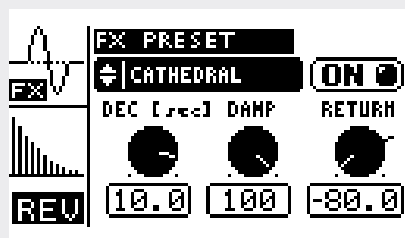
[18] **FX ボタン**：FX ボタンを押し、内部エフェクトを編集できます。

FX PRESET から、プリセットを選択できます。

EDIT エンコーダーを回してプリセットを選択し、押して確定します。プリセット名横のボックスで、エフェクトセンド（FX）の ON/OFF を切り替えます。

各プリセットには2つの編集可能なパラメーター、とエフェクトリターンのレベルコントロールが表示されます。

REV ページ（リバーブプリセット 01 - 40）



リバーブの編集可能なパラメーターは以下の通りです。

DEC（ディケイ .sec）

DAMP（ダンピング）

DEL ページ（ディレイプリセット 41 - 60）

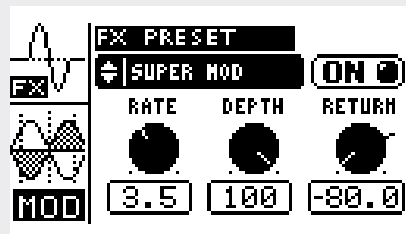


リバーブの編集可能なパラメーターは以下の通りです。

TIM（タイム ,ms）

FDBK（フィードバック）

MOD ページ (モジュレーションプリセット 61 - 80)



モジュレーションの編集可能なパラメーターは以下の通りです。

RATE (レート, Hz)

DEPTH (深度)

[19] PAIR ボタン：PAIR ボタンを押すと、スマートフォン、タブレット、またはノートパソコンで新規のペアリング接続をするのに必要な Bluetooth 検出シーケンスが開始されます。Bluetooth デバイスが接続を試みる間、緑色の LED が点滅します。デバイスが接続完了すると、緑色の LED が点灯します。これで Android または iOS アプリから EVOX JMX8 システムをコントロールできます。さらにステレオチャンネル 7/8 への Bluetooth オーディオストリーミングを利用できます ([10] を参照してください)。

[20] USB 端子：この USB タイプ B 端子は、ファームウェアのアップグレードが必要になった場合に使用します。

最新のファームウェアのデータは下記ウェブサイトより確認してください。

<https://www.rcf.it/en/evox-jmix-firmware-update>

7. 製品仕様

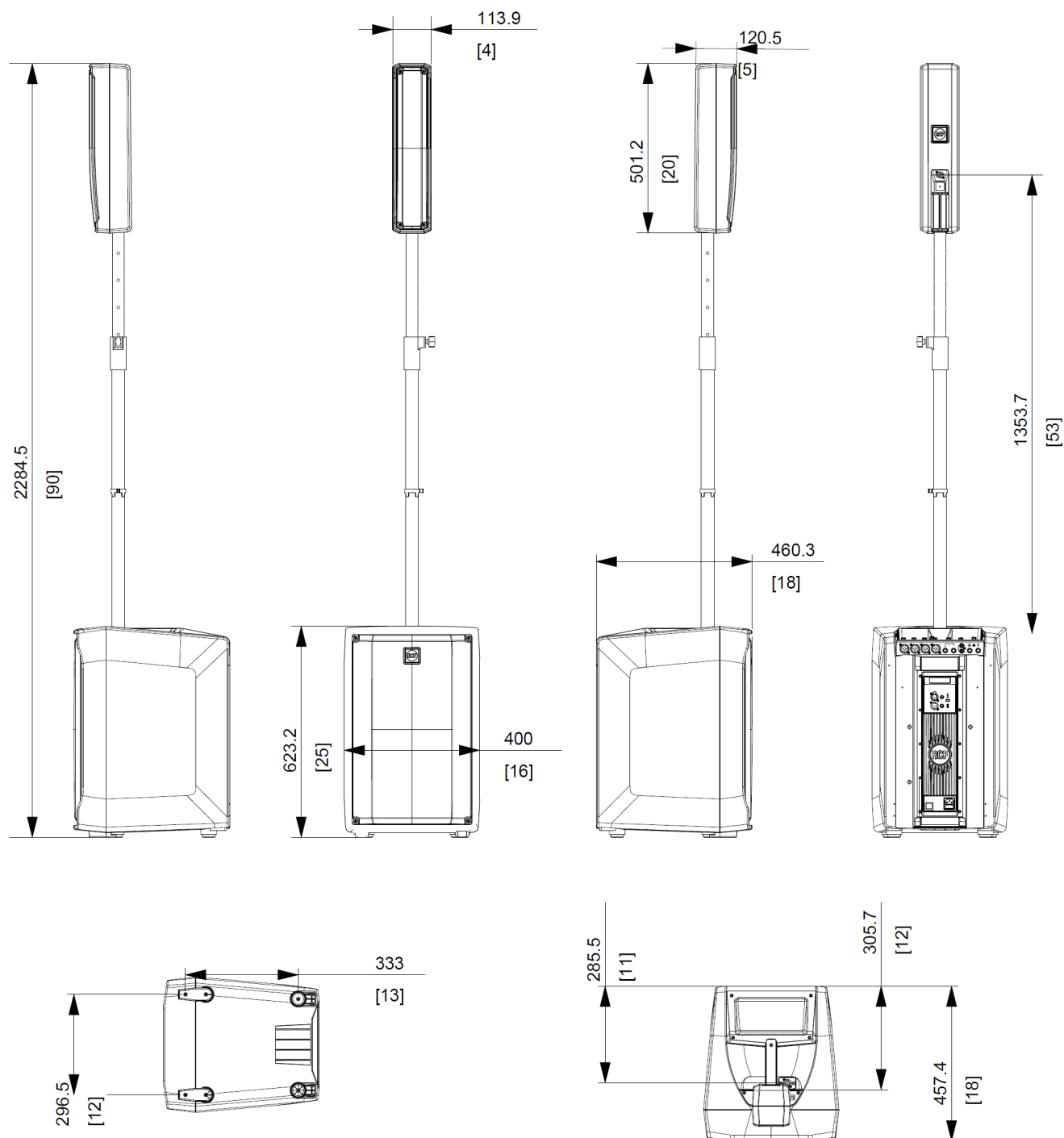
	EVOX JMX8
音響スペック	
周波数特性	40 Hz - 20 kHz
最大出力音圧	128 dB
水平指向角	120°
垂直指向角	30°
トランスデューサー	
フルレンジ	8 × 2.0" (1.0" v.c.)
ウーファー	12" (2.5" v.c.)
入出力	
入力信号	バランス / アンバランス
入力端子	XLR / フォン
出力端子	XLR
入力感度	-2 dBu / +4 dBu
パワーアンプ	
トータル出力パワー	1400W Peak, 700W RMS
高域	400W Peak, 200W RMS
低域	1000W Peak, 500W RMS
プロセッサー	
クロスオーバー周波数	220 Hz
保護	熱保護, RMS リミッター
リミッター	ソフトリミッター
コントロール	Volume, Boost, Mic/Line
物理仕様	
キャビネット材質	ポリプロピレン複合材
ハンドル	天面 × 1
グリル	スチール製
カラー	黒, 白
寸法 (H × W × D)	623 × 400 × 460 mm (LF ボックスのみ) 2285 × 400 × 460 mm (HF ボックスマウント時)
質量	22.2 kg
梱包時寸法 (H × W × D)	676 × 451 × 581 mm
梱包時質量	29 kg

8. 内蔵デジタルミキサー部仕様

	EVOX J MIX8
入力	
マイク入力数	4
ゲインデータのリモート保存	対応
ゲインレンジ	0 dB - 45 dB
入力ノイズレベル	-114 dBu A-Weighted
マイク入力インピーダンス	3 k Ω
ローカット	20 Hz - 1000 Hz
ファンタム電源 +48V	対応 (Ch.1 ~ Ch.2)
モノラルライン入力数	4
ゲインレンジ	0 dB - 45 dB
ライン入力インピーダンス	11 k Ω
Hi-Z ライン入力数	1
Hi-Z ライン入力インピーダンス	1 M Ω
A/D ダイナミックレンジ	108 dB
ステレオライン入力数	2
ゲイン選択	0 dB - 45 dB
ステレオライン入力インピーダンス	11 k Ω
出力	
AUX センド数	1
AUX 出力数	1
出力仕様	
メイン出力インピーダンス	150 Ω
メイン出力レベル	19 dBu
AUX 出力インピーダンス	150 Ω
AUX 出力レベル	19 dBu
D/A ダイナミックレンジ	108 dB
コンプレッサー	
RCF コンプレッサー	4 モノラル (6 プリセット)
EQ	
入力チャンネル EQ	1 セミパラメトリック / 2 シェルビング
AUX センド	
AUX	1 プリ / ポスト
FX ポスト	1
内部エフェクト	
センドエフェクト	1
マルチ FX インサートエフェクト	1
マスタリングプロセッサー	
メイン出力プロセッサー	1
USB オーディオ	
プレイトラック	2
その他の機能	
フットスイッチ	対応

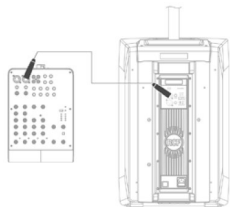
9. 寸法図

EVOX JMIX8 寸法図

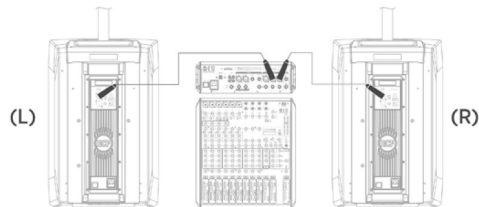


10. 機器の組み合わせ

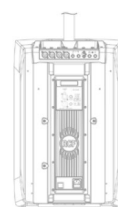
EXTERNAL MIXER WITH EVOX J8
(mono output)



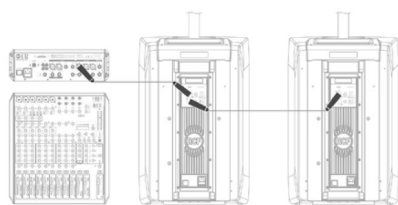
2 X EVOX J8 WITH EXTERNAL MIXER
(stereo output)



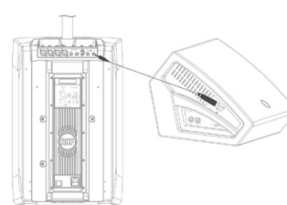
EVOX JMX8
(mono)



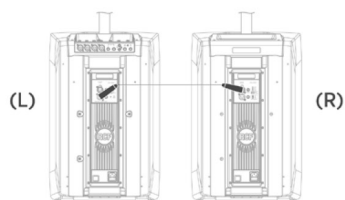
2 X EVOX J8 WITH EXTERNAL MIXER
(mono output)



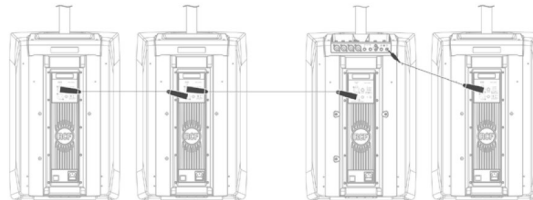
EVOX JMX8 WITH STAGE MONITOR
(mono)



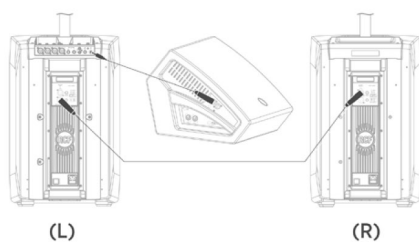
EVOX JMX8 + EVOX J8
(stereo output)



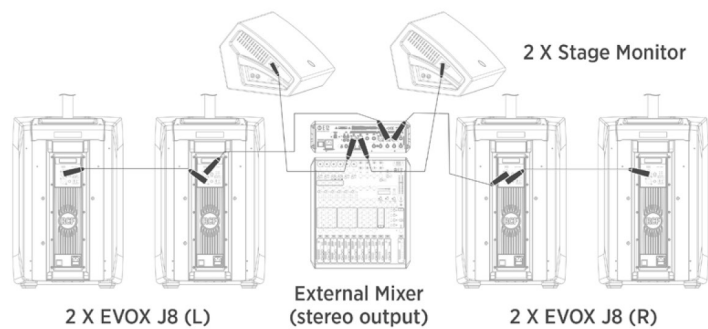
3 X EVOX J8 + 1 X EVOX JMX8
(stereo output)



EVOX JMX8 + EVOX J8 + STAGE MONITOR



LARGE J SYSTEM



11. ブロックダイアグラム

